IV-JAPAN
NEWS【NO.22】2014.11.30 発行

ますます進化する　職業訓練卒業制作発表会　第 14 期 9 月 26 日

【縫製コース】写真は審査委員の前で緊張気味の生徒。あまり自己主張をしないのがラオスの文化ですが、事前にデザインコンテストでアイディアを競わせたのが功を奏したのか、過去の卒業制作発表会と比較しても生徒オリジナルのデザインが増えました。

【美容コース】生徒それぞれがテーマを決めて、パーティーや結婚式といったシチュエーションごとのヘアメイクを披露しました。甲乙決めがたい接戦でした。

【調理コース】コンテストとなると緊張してしまう生徒が多い中、予選を勝ち抜いて決勝に進出した 2 名はどちらも冷静沈着でした。味も盛り付けも市内のレストランに負けず劣らずの実力を披露しました。

目　次

1ページ…職業訓練卒業制作発表会　2ページ…ビエンチャン職業訓練、ナーサイトン完了報告会　3ページ…木工職業訓練、草の根人間の安全保障無償資金協力のNGOフォローアップ事業　4ページ…ラオス国立大学経済経営学部創設者への感謝のレセプション
5ページ…シェンクアーン県職業訓練所建設、スタディツアーに参加して　6ページ…千客万来　7ページ…タイニュース
8ページ…奨学金ドナー紹介　9ページ…幸子のラオス便り　10～11ページ…国内活動　12ページ…かざして募金、寄付者一覧

ラオス・ビエンチャン職業訓練（調理・縫製・理美容）

―JICA 草の根パートナー型技術協力事業―

【地方教育局訪問】ラオス全国における短期職業訓練の推進・展開のため、8 月・9 月にかけてラオス北部のウドムサイ県、ルアンナムター県、ポンサリー県、中部のカムアン県、サワンナケート県、南部のチャンパサック県、セコン県、10 月にはシェンクアーン県の教育局や職業技術短大等を訪問しました。各県における職業訓練の現状の把握、そして各県の職業訓練センターのトレーナーとなる人材の育成支援について県教育局に説明・協議を行いました。

具体的には、各県での将来的な職業訓練実施の促進のため、トレーナーにふさわしい候補生を選別し、ビエンチャン職業訓練所でのトレーニングに参加するため派遣してもらうよう依頼しました。これらの協議が功を奏し、10 月からの上級コースや 11 月からの初級コースに複数県から公務員スタッフが派遣され、トレーニングに参加することになりました。彼らはこれから初級・中級・上級コース及びトレーナー養成講習を約 1 年間かけて受講し、トレーナーとして育成された後、各県の教育局にもどってトレーナーとなる計画です。できるだけ多くの技術・知識を身につけ、ラオス全国の職業訓練の質の向上、ひいては地方住民の生活向上・貧困削減につながるよう、当会としても可能な限りバックアップしていきます。＜左側写真・縫製分野上級コースで訓練中のポンサリー県職員のブンミーさん（左）とボリカムサイ県職員のセントーンさん（右）＞

【中間評価会議】2014 年 10 月 2 日に当会ラオス事務所セミナールームにて中間評価会議が開催されました。ビエンチャン都教育局、職業教育開発研究所、ラオス教育スポーツ省学校制度外教育局、同省技術職業教育局、同省国際関係局、ラオス外務省国際機関局からの代表者やその他関連機関の代表者が参加しました。現在までの事業成果、事業進捗状況、及び今後の計画について当会から報告を行い、各参加者から様々なアドバイスや意見・提案が挙げられ、実りの多い会議となりました。今後は 2014 年に制定されたばかりの職業訓練法に基づきながら、各機関と連携を密にし、正規教育（フォーマル教育）と学校制度外教育（ノンフォーマル教育）間の単位相互認定制度、カリキュラム整備、テキストの作成・編集を引き続き進めていきます。＜右側写真・中間評価会議の様子＞（大滝美佳記）

ラオス・ナーサイトン職業訓練・完了報告会開催

―外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業―

2014 年 10 月 18 日さいたま新都心「Withyou さいたま」において開催されました IV-JAPAN 理事会の後に、3 年間におよぶ外務省 NGO 連携無償資金協力事業『女性・青少年の収入向上のための職業訓練プロジェクト』の完了報告を行いました。当日は IV-JAPAN 関係者や埼玉県庁の職員等の参加者により、3 年次の現地事業責任者である飯村の報告の後、活発に質疑応答が行われました。以下に本事業の概略を示します。

本事業は 2011 年 10 月より、ビエンチャン特別市ナーサイトン郡でスタートしました。職業訓練センターの校舎建設後、初級・中級コースの職業訓練が計 6 期実施され、ナーサイトン在住の女性・青少年を中心に 365 名が初級コースを修了し、うち 297 名が中級コースも修了しました。初級または中級コース修了者 365 名のうち起業または就業した人数は、277 名でした（起業・就業率：75.9%）。本事業はラオス政府へのハンドオーバーの最重要ポイントである、公務員トレーナーの確保に苦慮しました。3 年次開始時点で縫製 1 名、理美容 1 名の公務員トレーナーが確保されました。また N 連終了後のセンター運営費は訓練費から捻出するため、3 年次は訓練費のみによる教材購入を行った結果、無事黒字決算となりました。

飯村事業責任者（左端）を囲んで報告会終了後の慰労会

本プロジェクトは、人材確保及び資金運営に苦慮しましたが、何とか完了報告を済ませることができました。これは冨永代表、日本及びラオス事務所スタッフ、ナーサイトンセンタースタッフそしてビエンチャン都及びナーサイトン郡職員が一丸となり、プロジェクトを進めた成果です。現在、ナーサトン郡教育課により、7 期訓練が実施されています。　　（飯村　浩記）

ラオス・ビエンチャン木工職業訓練

―JICA 事業・地域経済活性化特別枠―

6 月 23 日初級コース（3 ヶ月）、9 月 22 日中級コース（3 ヶ月）が始まり、試行錯誤を繰り返しながら訓練所の基礎を築いていきました。お化け屋敷同然だった既存の建物改修や作業台等の製作ではスタッフ一同、土・日も作業を行いようやく開講に漕ぎ付けました。初級コースでは鋸もノミも持ったことのない訓練生をいかに興味を抱いて物作りの世界に引き込むか腐心しましたが、『習うより慣れ』で初心者にしてはしっかりした椅子 2 点、デスクなどの作品を生み出せました。中級ではより高度な椅子作りに挑戦。【写真①－曲面と角度を組み合わせ、座面はフォームビニール張り】12 月 8 日からは上級コース（4 ヶ月）が始まります。100 平米の広さを持つ機械作業場【写真②－機械設置前の内部の様子】が既存の建物の横に完成し、日本からの機械（4 機種及び刃物類）も無事に訓練所に到着し設置を終えました。この機械は日本の事務局で公開入札を本年 5 月に行い、業者と契約後ラオスに来るまでに半年を要しました。10 月 3 日に横浜を出港し同月 13 日にバンコク到着。バンコクでは保管料が高いので 1 週間後ラオス・ビエンチャンの保税倉庫に運びましたが、万事非能率なラオスとしては意外な処理速度で無税輸入許可が下りました。しかし、3 つの木箱に入った機械は重い物で 700Kg を超し、フォークリフトを借りて機械作業場間近に移動させますが、乾季の今でも足場が悪くフォークリフトは地面の上をスリップして容易に運ぶことができません。急遽クレーン車を借り上げ、開口部に臨時の足場を作って機械を吊り上げて機械室に取り込む方式に変更【写真③－吊られているのはこれが一番重い自動一面カンナ盤】。と書くと簡単なようですが、写真の手前側には電線が間を空けて計 5 本も走っていて、クレーン車はその隙間を狙って吊り降ろし、ヒヤヒヤしましたが無事に終了。その後、機械は所定の位置に据え付けて、点検、結線、試運転と滞りなく進み、早くも中級コースの訓練生が新式機械を使って作業を開始しています。ラオスの習慣で僧侶を招き、今後の安全祈願を行い、12 月 5 日にはラオス、日本の賓客を招いて落成式を行うことになっています。

（松本重樹記）

外務省・草の根人間の安全保障無償資金協力の NGO フォローアップ事業

ヘルスポストに検診に来た妊婦さん（左）と看護師さん（右）

2014 年 4 月 28 日～5 月 1 日、外務省が行っている ODA「草の根人間の安全保障無償資金協力」の NGO フォローアップ事業としてラオスで活動している日本の NGO「難民を助ける会」と合同でサワナケット、サラワン、セコンの南部 3 県を訪問してきました。これは日本政府が開発途上国の地方公共団体や教育・医療機関、NGO などが実施するプロジェクトに対し資金協力を行うものです。これらの資金協力の効果を高めるために外務省は 2011 年に過去実施案件を全面的に見直すことを表明しました。現地事情に詳しい NGO に委託することで支援当事者である日本外務省や現地大使館が見逃しやすい点や指摘しにくい点を第三者の目線で明らかにすることができます。

今回は 2011 年に建設された村落道や給水施設、ヘルスポスト（簡易保健所）や中学校が、支援後も住民により継続的に使用・維持管理されているかを見に行きました。サラワン県に建設された 2 つのヘルスポストは、どちらも県病院や郡病院のある街の中心部からは遠く離れ、赤土の凸凹道を 1～2 時間かけて移動しなければなりませんでした。雨季の始まりだったため、あちこちに大きな水溜りがあり、今にも落ちそうな竹製の橋を渡り、途中タイヤがぬかるみにはまり、皆赤土まみれになりながら車を押し出して進むというエキサイティングな出張になりました。ヘルスポストには風邪をひいた子どもや、定期健診に訪れる妊婦さんが絶えることなく、ラオスの田舎に住む人たちの医療へのアクセス向上に日本の ODA がとても役立っていることがわかりました。一方で、サワナケット県の給水施設では乾季になると貯水槽の水が枯渇し対象地域全域に行き渡らなかったり、セコン県の中学校に建設したトイレにはもともと水道が通っておらず建設直後から使用できない状態にあるなど、設計段階での課題があるものも見つかりました。日本の ODA で支援するものが長くラオスの人たちに使ってもらえるように、設計・施工段階における第三者による品質保証のプロセスを組み込むことや、現地大使館の担当職員の専門性の確保など外務省へ提言しました。詳しい報告書は当会ホームページから入手いただけます。

（須田裕美記）

ラオス国立大学経済経営学部創設の父・豊田利久氏への感謝のレセプション

ワークショップの様子

2003 年より当会の理事である豊田利久氏はラオス国立大学経済経営学部（FEB）の創設に大きな貢献をしましたが、去る 10 月 6 日にビィエンチャンのラオプラザ・ホテルにおいて同学部主催の盛大なレセプション・パーティが実施され、私も招待されました。

今回の豊田氏のラオス訪問の主な目的は、FEB と東京大学（国際公共政策研究科）とが共催で行った国際ワークショップ「ラオスにおける資源の有効活用」に招待スピーカーとして参加することでした。ワークショップ終了後、会場が一変し、学部が秘密裏に準備を進めていたサプライズの始まりです。壇上に大きく「Reception in honor of Dr. Toshihisa Toyoda, the Father of FEB」＝生みの父と映像され、女子学生による民族舞踊が始まり、歴代学部長および現学部長による感謝の言葉が 30 分以上にわたって述べられました。特に、私も個人的に知己を得ているカムルーサ元学部長が、学部創設の初期段階から豊田氏が孤軍奮闘で努力し、後に大きなプロジェクトとして今日の成果を導いた経緯を詳細に以下のように報告しました。

レセプションバナー

「ラオス国立大学は 1996 年高等教育機関を統合して、ラオスにとっては初めての国立総合大学として発足しました。しかし、それまでは経済や経営に関する国立の高等教育機関はなかったので、全く新しい『経済経営学部』を創設することになったのです。ノーハウも資金もないラオス政府は、アジアで最初の経済発展をした日本から学びたいと日本政府に全面協力を要請、日本外務省が神戸大学の豊田教授（当時）に調査を依頼、何度かの調査を繰り返し、最終的には 5 年間の大型技術協力だけではなく無償供与による学部棟建設も実現しました。当初は 7 名しかいなかった教員も今は 100 名を超える規模になりました。」感銘を受けたのは私だけでなく、事情を初めて聞く多くの教員も同じだったようです。その後も、同氏と FEB との関わりを綴ったスライド・ショーが映像され、歌や参加者全員のランボン・ダンスなどが続き、豊田理事はうれし涙を隠すのに精いっぱいだったようです。同席した東大の教授たちは「教師冥利に尽きますね」と感激していました。NHK のサプライズ番組を真似たかのような演出でした。

創設以来、FEB は同大学におけるもっとも人気のある学部で、卒業生はラオスで様々な分野で活躍しており、将来のラオスの国運を担う人材が育っています。

また、流通科学大の上田義朗当会理事も FEB で教鞭をとりましたことを追記します。

（冨永幸子記）

歴代の学部長と教員、中央が豊田氏

学生による歓迎のダンス

ラオス・シェンクアーン県ユウコ職業訓練所事業

――伊藤裕子基金＆彩の国さいたま国際協力基金助成金――

訓練所全景

当会の伊藤裕子理事がドナーとなり、また彩の国さいたま国際協力基金助成金を得て、ラオス・シェンクアーン県において職業訓練所の建設が完了しました。今年 5 月 30 日にハンドオーバー式が行われ、伊藤理事と冨永代表、大滝職員が出席しました。8 月中旬より縫製、理美容、調理の 3 分野初級コースを実施。通常は 2 ヶ月間のコースですが、生徒は午前中は学校制度外教育高校過程を受講中なので、午後の 2 時間のみ実施のため初級終了は 12 月になります。縫製トレーナーは IV 職業訓練所で初級のみ終了した数学の先生、理美容トレーナーは美容院経営者でビジネスマネージメントの学校を卒業、調理トレーナーは化学と歴史の先生です。今後は IV-JAPAN で更なる研修を積み、トレーナーのみならず管理・経営についても研修したいと前向きな姿勢がみられます。

訓練生は縫製 7 名、理美容 6 名、調理 10 名がいます。生徒から初級の 2 ヶ月間の授業料 15 万 KIP（2,000 円弱）を徴収し運営しています。トレーナーは公務員教師のためトレーナーとしての給料は必要ありません。将来はシェンクアーン県が財政を支援する予定です。訓練所では薬草サウナ 1 時間約 130 円、マッサージ 1 時間約 260 円、シャンプー 65 円等、調理も料理を販売して、OJT（オン・ザ・ジョブトレーニング）を実施し、その売り上げはトレーナーや生徒の収入になりますが、20%は訓練所に収めることになっています。色々と工夫して継続運営に努力しています。

キッチン

********** ☆ ********** ☆ ********** ☆ **********

～第 18 回ラオススタディツアーに参加して～

荻原日本大使館医務官の関係者 6 名の参加を得て今年は実施されました。医師ご夫婦で参加され、病院や高齢者ケアハウス、特老など多角的に経営していらっしゃる**諸星咲子**さんより感想をお寄せいただきました。

ナムグムダムの前で

ひょんなことからスタディツアーに参加させていただきました。大学の同窓会で同級生がラオスに赴任すると聞いたのが発端です。ベトナム、インドネシア、フィリピンからは介護人材の受け入れをしていますが、二年間で日本人と同じ国家試験を受けて合格しなければなりません。近い将来に一般の研修制度 3 年間が介護業界にも導入されることになり、この制度を利用したいと考えていました。インドシナ半島、仏教国、GNP の低い国であるなど、ラオスは対象になるかもしれないと思い、遊びにいくからと声を掛けたのがきっかけでした。今回のツアーの主催が、長く職業訓練をしている法人と聞いてすぐに飛びつきました。急遽ラオスに関する本を買い込み、まずは古都ルアババーンへ。社会主義国とは思えない町の雰囲気、敬虔な仏教徒が多く、多くの寺院がある町並みに親近感を覚えました。ビエンチャンでは職業訓練の様子を見せていただき、昼食には調理コースの生徒さんの力作をいただき、レストランに見劣りしない味に感心しました。そして一番印象に残ったのは、代表の冨永さんが声を掛けたときの恥ずかしそうな笑顔です。質問すると、はにかんだ様子で答える方が多く、一緒に仕事をしやすいだろうと思いました。訪れた感想は、先入観と違いラオスは豊かな国でした。気候に恵まれ、野菜や果物はすぐ育ち、河には豊富な魚、あちこちで飼っている鶏、食べ物は豊か、常夏の国で防寒具もいりません。皆ゆったりとくらして欲がなく、仕事をしなくては、という必然性にはとぼしいのかなとも感じました。まだ介護業界への研修制度解禁は実現せず、仕事でのおつきあいができるのは少し先になりそうですが、当法人の職員にラオスを紹介し、皆で寄付をつのっての奨学金制度を立ち上げたいと思っています。最後になりましたが、その国の人の立場で活動続けている冨永様はじめ、IV-JAPAN の皆様に敬意を表するとともに、たずさわっている若い日本人スタッフとお会いして、いろいろな生き方、広い世界で生きて行く若い方達をみて、頼もしく思いました。

諸星夫妻（両端）

船上で昼食

千客万来

毎年この時期は多くの見学者に恵まれるのですが、今年も例に漏れずたくさんの方々が IV-JAPAN ラオス事務所及び職業訓練センターを訪れてくださいました。

★**JICA 中部教師海外研修（8 月 5 日訪問）**：毎年 1 回 JICA が実施しているスタディツアーで、開発教育（国際理解教育）に関心を持つ学校教師や教育関係者の方々が、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を学校現場に活かすことを目的としたものだそうです。今年は 11 名の先生方が参加され、当会の活動を見学されました。職業訓練センターの生徒たちにアンケートを取ったり、インタビューしたりと、とても意欲的に取り組まれている姿が印象的でした。

★**おきなわ国際協力人材育成事業（8 月 5 日訪問）**：沖縄県内から選別された高校生 13 名が、開発途上国で技術支援の現場や海外青年協力隊の活動現場を視察するとともに現地の若者と交流を行うという事業の一環で、当会を見学されました。将来は国際的な舞台で活躍したいと夢を抱く高校生たちに、当会の活動が少しでも何かのヒントになれば嬉しい限りです。
＜右写真・おきなわ国際協力人材育成事業高校生 13 名＞

★**文京学院大学インターン（8 月 20 日～9 月 12 日滞在）**：昨年から開始した文京学院大学からのインターン受け入れ事業として、今年は阿部君という男子学生 1 名が約 1 ヶ月間滞在しました。滞在中は上級コースの生徒との交流、文化体験の他、現在実施しているプロジェクトですすめている教科書編集作業等を手伝っていただきました。

★**コペニカ（8 月 25 日～9 月 3 日滞在）**：早稲田大学の学生が中心となって活動している学生団体「コペニカ」のメンバー4 名が、職業訓練センター上級コース縫製分野の生徒たちと共に、自らデザインしたカードケースや小物入れなどを製作しました。これらの商品は日本国内の各イベントで販売され、売上げは訓練生への奨学金支給などの教育支援に活用されています。

★**水と大地と緑の会（植田 康成）様（11 月 17 日訪問）**：植田様より以下のメールをいただいています。

17 日は事務所を訪問させていただいた上、これまでの活動の経緯と内容等のお話を聞かせていただきどうも有難うございました。ラオス国のインフォーマル教育にとって大きな役割を果たしている IV-JAPAN を知ることができました。お伺いしたお話のなかでも、特に印象的だったのは、ラオス国のインフォーマル教育の拠点的施設として、ビエンチャンにおいてトレーナーの育成等を行う仕組み、施設が構築、整備されてきていること、そして IV-JAPAN の支援を卒業後もこのラオス国で持続的とするために様々な工夫を行っていることでした。また、本日終了後、1 階の理容を利用させていただきました。髪を切ってくれたのはきっとトレーナーの方と思っていますが・・、そのまわりで櫛を手に持ち、熱心にトレーナーの動きにあわせて一緒にその手を動かしている研修生の姿がありました。レストランも魅力的でしたが、また理容も利用させてもらおうと思っています。

今後は、ビエンチャンでのご活動もラオス政府への移管に向けて取り組まれるようにお聞きしましたが、きっとこのラオスで課題となっている持続性を確保できるのではないかと思っております。そして、シェンクアーンでの新たなご活動も地方での人材育成等も含め大きな成果を出していくのではないかと感じています。引き続き、お体にお気をつけてラオスでお仕事、ボランティア活動をなされることを 祈っております。

*夏休みシーズンということもあり、大学学生団体（infinite connection の 4 名様:9 月 2 日訪問、I-RIS の 31 名様：9 月 5 日訪問）が見学にいらっしゃったり、9 月 14 日高岡万葉ロータリークラブのナーサイトン職業訓練所訪問等、多くの来訪者で賑わいました。ご来所いただきました皆様、有難うございました。

タイ・ニュース

タイ奨学金生と面会

10 月 10 日にバンコクのピブン福祉財団を訪問しました。法務省の矯正局の中に設置されている財団で、受刑者の家族の福祉のために活動している財団です。当会はその財団を通して受刑者の子どもに奨学金 20 名分を支給しています。タイでは全国に 142 の刑務所があり、その内 8 カ所は女性刑務所です。今回は局長が交代していて、新局長はウイタヤ・スリヤウオン氏でとてもお若く、仕事熱心な方と伺いましたが、お忙しい日程で 10 分ほどの会見でした。長年の奨学金支給に対し感謝を述べられました。

その後奨学金の生徒と家族と面会しました。お母さん（28 歳）が受刑者で、面会はお父さん（30 歳）と母方のお祖母さんが付き添って、通称ハヤトリーちゃん（9 歳）と会うことができました。お祖母さんは頭からスカーフをかぶっているのでイスラム教徒とすぐ分かりました。一家はイスラム教を信仰しています。母親は友達に誘われてラブリに遊びに行きましたが、友人はそこでドラッグを売っていて、一緒に警察に捕まり、25 年の刑に服しています。お母さんはハヤトリーちゃんの弟を幼くして亡くし、そのころからドラッグを使用したようです。ラブリはドラッグの売買で有名な所だそうです。後 22 年も刑務所で服役しないといけないとのことでした。タイでは受刑者の 90%がドラッグ関係で服役しているとのこと。お父さん（30 歳）は警備員を昼夜していて、家に帰ることはできないので、バンコクから 40 キロのメンブリーのお祖母さんの家に一族 10 人と一緒に住んでいます。おじさんやおばさんも経済的に助けてくれますが、土地もないので、生活は苦しいとのことです。奨学金は貯金して、ハヤトリーちゃんの将来の教育に使いたいとお祖母さんは言っています。ハヤトリーちゃんは洋裁が好きなので、縫製の職業訓練を受けて、お祖母さんを助けたいといいます。孫は 4 人いるが、ハヤトリーちゃんは成績も良く、自慢の孫だそうです。お土産にクッキーや学用品の入ったリュックサックをあげました。タイ財団理事長のラダさんは個人で現金をお祖母さんに就学の足しにとあげました。

ハヤトリーちゃんと冨永代表

ハヤトリーちゃんとラダ IV タイ財団理事長

2014 年度タイ財団理事会

仕事を持っている理事もいるので、理事会は通常夜間開催します。ピブン福祉財団を辞してから街中の戦勝記念塔の近くにある財団事務所まで、車で 1 時間以上かかります。タイ財団事務所は一時タイガールスカウト会館に置いていましたが、ラダ理事長がガールスカウトの副理事長を辞した今年からは、理事長が所有するコンティネンタル・マンションに移しました。今回の理事会は理事 4 名、ボランティア事務局員 1 名も出席しました。財団決算報告、監査報告、事務所移転等承認したのち、近くのレストランで和気あいあいと年に 1 回の友情を温めました。財団運営は全てタイ人のボランティアーで成り立っています。

カノック奨学金ドナー紹介

―前号に続き長年ご協力頂いている奨学金ドナーの皆様の中から 3 名の方のお便りをご紹介いたします―

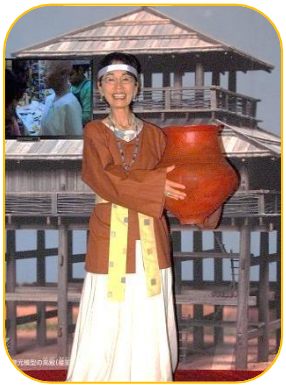
西条喜子（神奈川県横浜市在住）

世界には食べる物や学ぶ機会のない子供たちが沢山いることを知り、我が家の教育費がかからなくなってきた 1990 年頃からタイやラオスの子供たちを支援している貴団体を通して奨学金を送るようになりました。

私は 20 代の頃、羽仁もと子の思想に共感し、雑誌婦人之友の読者の集まりである「友の会」に所属して 30 数年になります。羽仁もと子の作った家計簿には「公共費」という費目があり、これは他のどの家計簿にもない費目です。この費目に使える有益なお金を差し出したいという願いもありました。

長年奨学金を送り続けているラオスの子供たちの実情を一度は見ておきたいと思い、2004 年には IV-JAPAN が企画したスタディツアーに参加しました。ビエンチャンの職業訓練校を見学したり、ラオスの小学校を尋ねたり、冨永さんのご案内でラオス観光もして有意義な旅をしました。ラオスの小学校を訪ねた時の素朴な子供たちの瞳の輝きを忘れることはできません。

今私は 60 代後半になり、年金生活ですが、必要とされる限りこれからも細々ではありますがラオスの子供たちへの支援を続けていきたいと思っています。



嶋　美喜子（東京都立川市在住）

カノック奨学金との出会いは、たぶん代表の冨永さんが活動を始めてまもない頃かと思います。というのも、その当時、ある外資系の化粧品会社が、社会貢献活動の一環として女性のグループに活動費を支援するというプログラムをもっていました。私はそのプログラムを運営する仕事を外注で請けていました。で、冨永さんがそのプログラムに応募してきたのです。

冨永さんのグループの活動内容を知って、私はとても共感を覚えました。そして、なんてワクワクする活動なんだろうと思いました。特に貧しい境遇にいる子どもにとって、教育というのは未来であり、希望であり、力です。私も自分にできることをしたいと思い、ドナーとなってもう何年経ったでしょうか。その間、子どもたちからお手紙をたくさんいただきました。読むと、私もしっかり生きなくちゃと、いつも気持ちが引き締まります。

私が冨永さんたちの活動に強く心を動かされたのは、日本を含む現在の富める国は貧しい国から富を掠め取っているという思いがあったからです。この構造はいまも変わっていません。私がドナーとなれるのも、カノック奨学金に関わっているすべての人たちのご尽力あってこそと思っています。どうぞ、これからもよろしくお願いいたします。

荒井みど里（山形県鶴岡市在住）

総理府主催の「青年の船」に乗ったのは、42 年前 31 歳の時です。私は現役で仕事をしていましたし、3 歳の子供も（日中は近所の知人に預かり保育）おりましたので迷っておりましたら、主人から行ってこいと背中を押してもらい、2 ヶ月間の船に乗ることとなりました。団員は 1 班 10 名で 30 班あり、各班に一人ずつ班長がいました。私は班長として乗船。各寄港地で表敬訪問や交流、ホームステイ等を行い、それぞれの生活に触れ、垣間見ることができました。

下船して間もなく、カノック奨学金の案内がきました。まだ子供は小さいし、大きな活動はできない私は事後活動の一端になるのではないかとドナーの依頼を申し受けることにしました。今回原稿依頼の連絡を受け、振り返ってみることができました。

私が暮らしている庄内地方は首都圏から離れた米処で農業が主体です。私たちはどこに生を受けたかにより生活も文化も変わります。それぞれの国で経済や文化の進展は大きく違い、そこに暮らす人々、まして子供たちは親も地域も選ぶこともできずに生まれ育っている現状を思います。少しでも子供たちに夢や希望が持てる助けになればと思います。

幸子のラオス便り No.28

ラオスの大学受験事情

ラオスには国立大学が 4 つありますが、一番古くて人気のあるのは首都ヴィエンチャンにある、ラオス国立大学です。地方には、ルアンパバン県のスパヌボン大学、南部のサワナケット大学とチャンパサック大学があります。通常ラオスの大学の新学期は 10 月に始まりますが、大学受験は 8 月初旬に 2 日間あり、合否の発表は 8 月下旬です。

毎年高校卒業試験に受かる生徒は 4 万人、ラオス国立大学を志望する受験生は浪人生も入れて、およそ 1 万 5 千人いますが、入学ができるのはおよそ 6 千人で、約 2.5 倍の倍率です。その内　成績上位の千人は政府の奨学金がもらえます。受験科目は、自然科学、数学、化学、国語、地理、歴史の 6 科目です。

優秀な学生は自分が希望して登録した学部に入れますが、合格しても点数の低い学生は、希望しない他学部へ回されます。これが問題です。希望しない学部の場合は学習意欲が無くなりますので。11 学部のうち、一番人気は経済経営学部で、550 人が入れます。これは日本の援助で 2001 年に校舎が建設され、神戸大学の豊田利久教授（当会理事）が立ち上げに尽力しました。2 番目の人気学部は法学部の 256 人、次は文学部の 398 人、そして社会学部と続きます。一番人気の無いのは農学部の 120 人です。ちなみに工学部は当会の事務所の隣です。工学部も日本の援助でたくさんの専門家が来て電気工学や IT の分野で貢献し、最近はロボットコンテスト出場も果たしています。

入試に失敗すると、大学へ行きたい学生は私立や職業訓練短大、教員養成短大等を選びます。ヴィエンチャンタイムズの新聞で「大学受験に失敗したら、あなたはどういう道を選びますか」の問いに高校卒業生が答えていました。

1. 私は浪人したくないので、私立を受験します。私の村でも浪人生がいますが、1 年間何もしないで勉強にも身が入らずぶらぶらしているだけでした。
大学を出ても就職が難しいので、進学することを躊躇する人もいます。（女性）
2. 私のような地方出身者は、大学へ行きたくても近くには短大もないので、ラオス国立大学にはいれるように頑張ります。（男性）
3. 銀行・会計学を勉強したいので、大学へ行きたいです。私立でも良いのですが、それも失敗したら、就職するか浪人するかはまだ迷っています。入試に失敗した人の中には、不正の手段で（裏口から）お金を渡して入学する人もいます。お金を払ってもだまされることもあります。私は不正は嫌なので、やりません。（女性）

ラオスの若い人たちが、なぜ大学に行きたいかというと、一番人気の職業、公務員になるためです。公務員になると初任給 1 万 5 千円位の月収で安いのですが、海外留学の可能性が高いのが人気の理由です。公務員アパートに入居できたり、無料ガソリンのチケットの支給などもあり、手当が色々付きます。また、出世すると住宅や車の提供もあります。去年から公務員採用制度が確立され、まず内務省主催の一般常識の試験がありますが、受験資格は短大卒業以上に設定されました。それに合格すると、次は各省の試験になります。とても狭き門です。公務員は学歴により給料が違うので、ますます学歴重視の社会になりつつあり、私は憂慮しています。

私どもの職業訓練所では優勝な生徒は学歴に関係なくトレーナー講習を受けて、ラオス各地でトレーナーになって指導をしていますが、訓練所自体は当会のプロジェクトが終わるとラオスの官庁に引き渡され、彼らが運営を続けます。公務員のトレーナーは国から給料が支給されるので、職業訓練所の授業料を人件費に回さなくても良いからです。私どもが育成したトレーナーは高校卒が多く、公務員の受験資格もありませんが、当会の美容と縫製のトレーナー3 名が今年　公務員に採用されました。ラオスでは理容・美容職業訓練分野は当会しか実施していないため採用され、縫製トレーナーも高卒後縫製コースを 3 年間習得していたので、短大卒と同様と評価され、公務員になれました。とてもうれしいことです。

経済経営学部のエントランスで学生たち

国内活動

●富山県高岡万葉ロータリークラブ講演会

当会冨永代表が 10 月 24 日富山県高岡市の「高岡万葉ロータリークラブ」(以下 RC)の依頼により、現地で講演を行いました。

RC はすでに 3 回ラオスを訪問され、今年は 9 月 14 日にナーサイトン職業訓練所で、現地の女性や青少年の経済的自立のためのミシンローン支援金として、30 万円を直接冨永代表に手渡されました。ナーサイトンでは縫製の卒業生の職場も訪問し、上手に製作されたバッグ等を全部買いあげられ、美容院を起業した卒業生の店では同行した RC の奥様が編上げをしてもらい、確かな技術に感心していました。高岡では現地に来られなかった RC の皆さまにより深くご理解いただくためパワーポイントを使用し、IV の活動内容等紹介させていただきました。

⊡富山県立伏木高等学校生徒さんよりお便りが届きました⊡

☺10 月 25 日冨永代表が伏木高等学校 1 学年・国際交流科の学生 120 人を対象に国際ボランティア活動について講演を行いました。参加した生徒からの感想分（一部抜粋）を紹介します☺

澤田　瑞希

冨永さんはすごく行動力のある方だと思いました。インドの服を着たいからといって、中学校で英語の部活を作るなんて自分には絶対できません。インドの人と中学生の時から続けて文通もしていて、私はその話を聞いて冨永さんに強いあこがれをもちました。冨永さんのような自分のやりたい事に向かって頑張れるような人になりたいです。いい話を聞けて良かったです。

深田　智大

僕はボランティアが好きではないです。なぜなら何も返ってこないからです。仕事などは働いた分のお金がもらえますが、ボランティアでは何も返ってこないから好きではないです。しかし何も返ってこないというのは嘘だったようです。働いた分だけ人の幸せが生まれているように思いました。写真の子供たちは皆笑っていました。お金なんかなくてもそれさえあれば十分のような気がしました。

西尾　美咲

冨永さんは発展途上国へとボランティアをしに行っている人で、アジアの農村開発、農業支援、米銀行の設立などたくさんの支援をしていてすごいなと思いました。冨永さんが言うには、途上国を援助する理由は日本とお互い助け合っているからです。途上国はおとっているという考えはいけないという言葉がとても胸に響きました。様々な国に貢献していて素晴らしいと思いました。将来役立つ仕事に就きたいです。

堀川　真央

冨永さんはラオスなど色々な国でボランティアや教育の指導という面で活躍されていて、日本だけじゃなく世界で人の役に立つような仕事をするのはすごくすてきな事だと思いました。日本の人が他国でボランティアするだけじゃなく、東日本大震災ではフィリピンの人が日本の被災地を巡回していたときいて、お互いに助け合うことがすてきだと思いました。今の世の中英語は当たり前で、マイナーな言語を学ぶことが大切だということがわかりました。今、第 2 外国語でロシア語を学んでいるのでいつかそれが活かせればいいなと思いました。

小笹　もも

ラオスは外国の援助を受けて国が成り立っていると聞いて大変だなと思いました。日本の津波の時は、元留学生が T シャツ 2000 枚も売ってくれて、日本のためにがんばってくれて、ラオスはとてもいい人が沢山いるんだと思いました。65%はラオ族でもち米が主食だということを知りました。冨永さんは人材育成が大切だとおっしゃってたので、これからもっとがんばらないといけないと思いました。すごく貴重な経験ができて良かったです。

中山　結花

何かを始めるのに年令とかは全く関係ないのだと思いました。国際交流科らしく、他の国の人々と交流していくことを楽しんで行きたいなと思いました。今、中国語を選択し一生懸命がんばっている所ですが、これからも一生懸命学び、たくさん話せるようになりたいです。冨永さんの話でラオスの国の事情について少しは知りました。このような話を聞き、私たちの世代が国際的な活動をしなければならないのだなと強く思いました。取りあえず今は英語と中国語をしっかり学び、人としっかり話せるようになり国際的にこうけんしたいです。

●アジア理解講座　　―ラオス料理教室、ラオス語講座―

6 月から 11 月にかけて開かれた講座は、二部制で行いました。第一部のラオス語講座では、レストランの予約や旅行の感想を言う練習をしました。第二部の文化紹介では、ラオス料理やラオス創世記の伝説を紹介しました。

毎回、継続して参加くださる方から初めてラオス語に触れるという方までレベルが異なり、それぞれの方の関心もばらばらなので、講座の内容にはいつも頭を悩ませましたが、みなさんが「楽しい」「勉強になった」とおっしゃってくださり、励みになりました。また、在日ラオス人の方や留学生が毎回講師にきてくださり、発音の指導をしてもらったり、単語のニュアンスの違いを説明してもらいました。(東京外国語大学　光成奈々子）（編集部注：光成さんは 12 月 1 日から 6 ヶ月間当会ラオス事務所のインターンを始めます。）

月日	講座名	参加者数	内　容	文化紹介
5 月 17 日	ラオス料理教室	13 名	カオチーパテとナムワーンを調理	
6 月 18 日	ラオス語講座(その 1)	10 名	ゲストハウスを予約する②シンを買う	ラオスの世界遺産の紹介
7 月 30 日	ラオス語講座(その 2)	9 名	レストランを電話で予約する②料理の感想	ラオス料理の紹介
9 月 3 日	ラオス語講座(その 3)	7 名	家族を写真で紹介する	ラオスの伝説
10 月 8 日	ラオス語講座(その 4)	9 名	旅行の思い出を話す	ラオス職員による現地情報
11 月 19 日	ラオス語講座(その 5)	8 名	お別れの挨拶	バーシーについて

※上の表はこれまでの文化講座記録

●グローバルフェスタ JAPAN2014 で取材

IV-JAPAN が毎年参加しているグローバルフェスタ（今年は 11/1、2 開催。於・日比谷公園）の会場で、小学生特派員から取材を受け、その様子が『毎日小学生新聞』に掲載されました。いくつかの団体が紹介され、IV については「ラオスで職業訓練のクラスを開いていて、働く場所がなく困っていた人たちが、ものづくりやヘアカットなどの技術を学べば、自立して暮らせるようになると聞きました。できあがった工芸品などを見せてもらいました。」と書かれてあります。世界の現状を知り、日本との違いなど学び、何かを感じ取ってくれたと思います。

●ACT「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」

*―8/19～10/18 まで IV-JAPAN のインターンとして短期所属した**張　明宇**さんの感想文です―*

日本に住んで 5 年になりましたが、色々な人たちと出会いました。たくさんの人にお世話になりました。恩返しの気持ちをこめて、日本で誰かのために何かをしたいと思い、アジア留学生インターン受入れ助成プログラムにインターシップを申しこみ、IV-JAPN と出会いました。

私の仕事は、ホームページを改善するというより、ホームページを勉強しながら、皆の要求に応じて、いろいろなところを直したり、作ったりしました。まず、ホームページのロゴに『認定　埼玉県指定』を入れました。photoshop で真ん中のピクチャーの文字を変え、ページに『年次報告書と会計報告』を追加し、不要になった情報やバナーを削除しました。次に、ニュースレターに QR コードを提案しました。ほとんどの人たちはスマートフォンを使っていますから、QR コードなら便利ですぐにホームページにアクセスできます。ラオス語講座では、事前の準備やプリントを配ることや人数の確認などを手伝いしました。

IV-JAPAN 事務所での張さん

IV-JAPAN の人たちは団体を知ってもらうためにいろいろな努力と工夫をしていました。このインターンを通じて、NGO とはどんな組織かがよくわかり、勉強になりました。また、周りの人たちを大事にして、将来のことに役立たせたいと思っています。私は IV-JAPAN との絆を作ることができたと思います。どこでも IV-JAPAN の一員としてラオスの支援を周りの人たちに宣伝します。私はこれからも IV-JAPAN の活動によく注目したいと思います。もし時間があったら、ラオスに行きたいです。もっとラオスの文化と民族を理解して、ラオスの生活と活動を体験したいです。

かざして募金ご協力のほど宜しくお願い致します。

前号でお知らせしましたように、ソフトバンク（株）では社会貢献の１つとして携帯電話の利用料金と一緒に寄付ができるアプリケーションの提供をしており、今回 IV-JAPAN も登録完了しました。スマートフォンを使用されている皆様に限られますが、まず同封のチラシの QR コードより「かざして募金」のアプリをインストールしていただき、右の IV のロゴ全体（文字も）にかざしますと当会へのご寄付をしていただけるようになります。

手順につきましては同封のチラシをご覧ください。

またページ下の　QR コード（IV のアドレス）を読み取り、IV-JAPAN のホームページからもご寄付いただけます。

認定・埼玉県指定
（特活）国際協力 NGO
IV-JAPAN

♡♡♡ご協力ありがとうございました!!♡♡♡　　—順不同･敬称略—

♡♡カノック奨学金ドナー紹介 ♡♡（2014/8/1 から 2014/11/30 まで）

佐藤美津子（5 口）、太田榮次（2 口）、神原　恵、みどり幼稚園みどり会（9 口）、斎藤加代（3 口）

❤運営・プロジェクト費寄付者一覧❤

（2014/8/1 から 2014/11/30 まで。5,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

清水裕子（5 千円）、富山県高岡万葉ロータリクラブ（30 万円）、中村よね（1 万円）、渡名嘉よし子（5 千円）
大野宏江（10 万円）、社会福祉法人輝星会（1 万円）、医療法人社団北條会（1 万円）、JTB 沖縄（＄160）
阿部　元（4 万円）、飯村　浩（5 万 2,800 円）、IV-JAPAN スタディツアー参加者（4 万 8,712 円）

＜編集後記＞　*～事務局員のつぶやき～*

年末から年始にかけての国民的行事を心待ちにしていたのは､遥か彼方の記憶の圏外｡また今年も心をなくす日々が訪れようとしています。優雅に海外旅行でも、と現実味のないことに想像力を働かせながら、せっせセッセと日常をこなしていきます。愚痴っぽくなってしまいましたが、ただ新年に向けての期待感はいつも満タンです。皆さまはいかがでしょうか。

ラオスでも日本でも世界中が､時間のずれは多少ありますが､この時期必ず１つ年を経ます｡この平等の不思議｡少し早いですが、皆さま今年１年 IV-JAPAN へのご理解、ご協力大変ありがとうございました。引き続き来年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。IVNEWS も今後もご愛読いただけますと幸いです。ご意見・ご質問等どのような事でも結構ですのでお寄せください。お待ちしております。（事務局　井藤）年々寒さがこたえる。

＜随時会員を募集しています＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します

① 奨学金ドナー　　年１口　**12.000 円以上**
② 国際協力費又は運営費ドナー　　★個人 年１口　3.000 円以上　　★団体及び法人 年１口　10.000 円以上

・申込方法（銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下 4 桁の明記をお願い致します）

郵便振替　：（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　（※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。）
（普通）　口座番号:5038052　　名義人：（特非）国際協力 NGO・IV－JAPAN

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN

日本事務所
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2
シティヒルズ 101
TEL:048-622-8612 / FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/

タイ事務所
Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya
(Rajsavithi 9)Rangnam Rajsavithi,
Bangkok 10400 Thailand
E-mail: valaikorn@hotmail.com

（QR コード IV-JAPAN アドレス）

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX : +856-21-316047
携帯電話；+856-20-55515122
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

フィリピン事務所
112 A.S.Fortuna St.Bakilid
Mandaue-City Cebu　Philippines
TEL:+91-53-407-716
E-mail: ivjapan.ceb@gmail.com